



大北小だより

臨時号

平成 27年10月19日

練馬区立大泉北小学校

校長 小島 英樹

学力向上を図るための調査結果

今年度の学力調査の結果をお知らせします。現在、調査結果を分析し全教員で授業改善のためのプランを作成しています。以下は、学力調査の結果と課題および改善策です。

1 6年生 全国学力・学習状況調査 4月21日実施

(1) 国語

ア 知識

	関心・意欲・ 態度	話す・ 聞く能力	書く能力	読む能力	言語につい ての知識・ 理解・技能	国語全体
大北小		50.9	90.2	56.3	74.6	69.3
全国		53.0	86.0	55.2	77.2	70.0

書く能力と読む能力の観点で全国の平均を上回りました。しかし、話す・聞く能力と言語についての知識・理解・技能は下回りました。

「話す・聞く能力」の解答を見ますと、聞き方の説明として適切なものを選択する問題で誤答が目立ちました。話を聞く際に大切な内容は何か、言いたいことはどんなことかなど、聞く際の観点を明らかにする指導を取り入れていきます。

また、児童質問紙の回答からは、読書活動が十分ではないという課題も見られました。今後は、本に親しむ活動を充実させていきます。

イ 活用

	関心・意欲・ 態度	話す・ 聞く能力	書く能力	読む能力	言語につい ての知識・ 理解・技能	国語全体
大北小	53.3		59.8	66.7		64.7
全国	55.4		61.1	68.1		65.4

9題の設問の中では、全国の平均値を上回るなど良い結果の設問もありましたが、全体では活用する力が備わっていないという結果が出ました。各設問の結果をもとに、育てる力を確認して授業を改善していきます。

(2) 算数

ア 知識

	数学的な考 え方	数量や図形に ついての技能	数量や図形につ いての知識・理解	算数全体
大北小		76.0	76.1	76.1
全 国		77.2	73.6	75.2

設問ごとの正答率をみると、円や角度については、全国を上回っています。一方、分数の引き算やグラフの読み取りに課題がありました。分数の計算については、今後演習を増やし解く力を定着させていきます。また、グラフの読み取りについては、授業の中で意見交換の場を充実させるなど、授業改善に努めます。

イ 活用

	数学的な考 え方	数量や図形に ついての技能	数量や図形につ いての知識・理解	算数全体
大北小	35.5	55.4	73.2	44.4
全 国	35.3	58.7	74.9	45.0

数学的な考え方のみ全国平均を上回りましたが、他の観点では届きませんでした。設問ごとの正答率を見ますと、およその数や数量関係（歩合）などが低かったです。該当する単元を丁寧に確認しながら進めるとともに、既習事項を振り返ったり、繰り返し演習を取り入れたりするなど、学んだことが定着するように努めます。

(3) 理科

	科学的な 思考・表現	観察・実験 の技能	自然事象につい ての知識・理解	理科全体
大北小	58.9	62.1	68.8	61.2
全 国	60.5	55.5	68.6	60.8

理科全体と自然事象についての知識・理解、観察・実験の技能では、全国平均を上回りました。設問ごとの正答率は、科学的な思考に関わる問題とエネルギーに関わる問題がもう一歩でした。実験の前後に班や学級全体で考えを話し合う場を設定するなどして、自分の考えを広げたり深めたりできるように努めます。

2 5年生 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 7月2日実施

※ 東京都の値は、速報値です

(1) 教科の内容

	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む	
	大北小	東京都	大北小	東京都	大北小	東京都	大北小	東京都	大北小	東京都
国語	92.9	88.8	75.0	74.2	65.1	60.8	65.2	61.3	68.2	63.2
社会	85.4	89.1	64.4	59.9	75.7	67.7	51.7	44.3		
算数	81.6	80.2	60.8	59.9	66.6	68.5	68.7	69.5		
理科	87.7	92.0	61.6	58.9	76.9	72.0	74.4	73.2		

教科で見ると、国語が最も良く、全ての観点で東京都を上回りました。以下、社会、理科は4つのうち3つの観点が上回りました。算数は、2つの観点が上回りました。

全体的には良い結果でした。本校では、「大北小スタンダード」として全校で統一した指導方法を4年間継続してきました。「大北小スタンダード」により、どの学年、どの学級、どの教員も一致した指導を積み重ねてきたことが、学習規律や生活習慣の定着につながり、学力の定着にもよい影響を与えたと考えます。

また、算数では、自分が考えた解き方を子供同士で伝え合ったり、計算の方法を確認したりするなど少人数指導を進めてきたことが思考・判断力の結果につながったと考えます。さらに、知識・理解、技能については、東京ベーシックドリルの活用をはじめとした演習の時間を設けて定着を図ってきたことも成果となって表れてきたものと考えます。

社会や理科の関心・意欲・態度については、実験観察の際に他の班との情報交換を取り入れたり、興味や関心を引くような新聞記事や写真を提示したり掲示したりするなど、授業環境の改善に努めていきます。

(2) 読み解く力に関する内容

	取り出す力		読み取る力		解決する力	
	大北小	東京都	大北小	東京都	大北小	東京都
国語	61.3	54.9	5.7	6.0	39.6	37.8
社会	66.5	57.2	52.8	52.4	38.7	32.6
算数	83.5	73.9	39.2	24.2	50.0	37.9
理科	70.8	59.9	60.4	55.5	67.0	55.8

どの教科でも学力が向上しつつあることを感じます。今後は、さらに資料を比較する・関連付けて考えるなどの場面を設定して、思考力・判断力の向上を図っていきます。

3 児童の意識調査から（調査結果の一部です）

（1）朝食

毎朝必ず食べると答えた児童が約93%、全国平均は約88%でした。一日の始まりは大切です。良い結果とも言えますが、40人の学級とすると2～3名が朝食を毎朝摂っていないこととなります。規則正しい生活が学校生活、学習の土台です。毎朝の朝食を確実に摂るよう今後ともよろしくをお願いします。

（2）テレビの視聴時間（平日）

4時間以上が約12%、3時間以上4時間未満の児童が約14%。2時間以上3時間未満の児童が約25%、1時間以上2時間未満の児童が約27%、1時間未満が16%でした。全国や都道府県の結果より少なめですが、テレビの視聴の代わりにDVDを見る・ゲームをしていることも考えられます。実態に応じて各家庭でご検討ください。

（3）ゲームをする時間（平日 専用機器、携帯電話、スマートフォンを含む）

4時間以上が約7%、3時間以上4時間未満の児童が約7%。2時間以上3時間未満の児童が約10%、1時間以上2時間未満の児童が約26%、1時間未満が30%でした。これも、全国や都道府県の結果より若干少なめの結果でした。ただ、8割の児童が日々ゲームに触れているという実態も浮かびました。遊ぶ際の約束をご家庭でお考えください。

（4）家庭の学習時間（平日）

調査の結果は、1日当たり3時間以上行う児童が約17%。同じく、2時間以上3時間未満の児童が約16%。1時間以上2時間未満の児童が約39%。いずれも全国平均を上回っています。ただし、休日はそれぞれの時間帯で割合が減っています。3人に1人が1時間未満（全くしないを含む）となっています。机に向かう習慣を大切にしたいです。

（5）読書（家庭での読書、図書館利用）

家庭で平日に30分以上読書する児童が約34%、全国より4%低い状況です。また、図書館を利用する頻度として、月に1回以上利用する児童は約32%、全国は約41%でした。他県に比べて図書館などの施設が恵まれている状況でありながら、読書が身近になっていない状況があります。学校では、読書旬間を企画したり朝の時間に読書をしたりしています。ご家庭でも本に親しむ機会を設けてくださるようお願いします。

（6）自分のよいところ

「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」と72%の児童が答えました。都や全国よりも3ポイント以上低い結果でした。

児童は、学年が上がるほど自分のよいところを認識しなくなる傾向があります。客観性が育ち、人に勝っていることが「よいところ」と考えがちです。しかし、人に勝っていることが「よいところ」ではありません。気持ちや行動をはじめとして、自分のよいところを認識してもらい、かけがえのないものとして自分や友達を大切にしたいと願っています。

学校では、児童が自分のよいところに気付くことができるよう、優しく素直な心を伸ばせるよう、頑張ったことや努力したことを認め励ます言葉をかけています。ちょっとしたことでいいのです。ご家庭でも同じように認め励ます言葉をかけてくださるようお願いします。